営農支援情報

～営農にお役に立つ情報をお届けします～

平成30年5月1日
（第2号）
発行元：ホクレン北見支所 営農支援室
（アドレス：11einousien@hokuren.jp）

今号のテーマ：『小麦について』

1．北海道産小麦の受渡状況について

29年産民間流通小麦の受渡につきましては、前年並み程度で推移しております。

用途別の受渡につきましては、日本めん用は実需者の使用ロットが29年産中心に切り替わってきたことなどから、堅調な推移となっております。一方、パン・中華めん用は、引き合いは強いものの29年産の作柄不良による品質低下などにより引取りが慎重になっており、前年産を下回る進捗となっております。

表１．29年産小麦の受渡進捗状況（３月末実績、系統分）　（単位：トン、%）

		当初契約数量 ①	取扱（入庫）数量 ②	比率 ②/①	3月末受渡数量 ③	進捗状況 ③/②
小麦	29年産	543,308	537,529	99%	228,495	43%
	28年産	509,464	471,497	93%	203,149	43%
	差引（29-28）	33,844	66,032	－	25,346	－

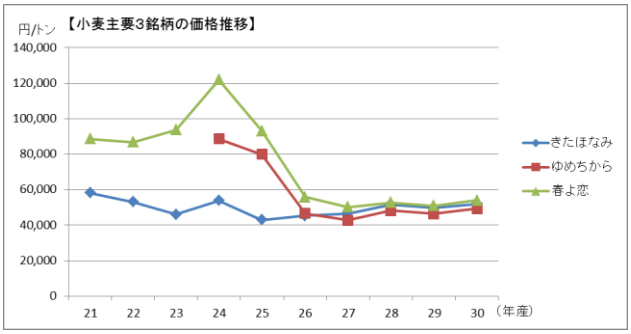
表２．北海道産小麦の受渡進捗状況（用途別、系統分）　（単位：トン）

	日本めん用		パン・中華めん用	
	28年産	29年産	28年産	29年産
入庫数量	385,942	443,017	85,555	94,512
オーダー数量	175,028	204,096	28,121	24,399
進度	45.4%	46.1%	32.9%	25.8%

2．民間流通小麦の価格推移について

民間流通小麦の契約価格は、ここ数年はトンあたり50,000円程度で安定して推移しております。

また、29年産民間流通小麦の流通価格は、輸入麦価格変動率により平成29年8月～平成30年3月まで受渡分は契約時価格の100%を若干下回りましたが（A・B期間）、平成30年4月以降の受渡分については103.3%と契約時価格を上回る流通価格となります（C期間）。



【平成29年産民間流通麦】　（きたほなみ、1等建値）

年	平成29年					平成30年								
月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
流通価格	A		B						C					

契約価格（円、税抜）	×	輸入麦変動率（%）	=	流通価格（円、税抜）	ASW 流通価格
49，751円	×	96.4%	=	A価格（平成29年8月～9月）　：47，960円	44,112円
49，751円	×	99.8%	=	B価格（平成29年10月～平成30年3月）　：49，652円	48,963円
49，751円	×	103.3%	=	C価格（平成30年4月～平成30年9月）　：51，393円	50,922円

3．北海道産小麦の安定的・計画的な生産に向けた取り組みについて

道産小麦の需要が拡大し、各銘柄ともに引き合いの強い状況のなか、用途別需要に応じた安定的・計画的生産に努めるべく、下記のような取り組みを実施しております。

（取組事例１）JA・米麦改良協会との連携による取組

安定生産の確立に向けた試験圃場の設置

各地区の課題に対応した試験圃場の設置

↓

検証結果を産地へ提供し水平展開

※29年産より実施。道内10圃場。

（取組事例２）

新品種候補系統の実規模栽培・製粉試験

①「**北見92号**」（北見農業試験場育成）

・**薄力粉**（菓子用、新規用途）品種

②「**北海265号**」（北農研センター育成）

・「ゆめちから」後継品種、超強力小麦

・「ゆめちから」より**穂発芽耐性が優れる**

小麦の肥効調節型肥料について

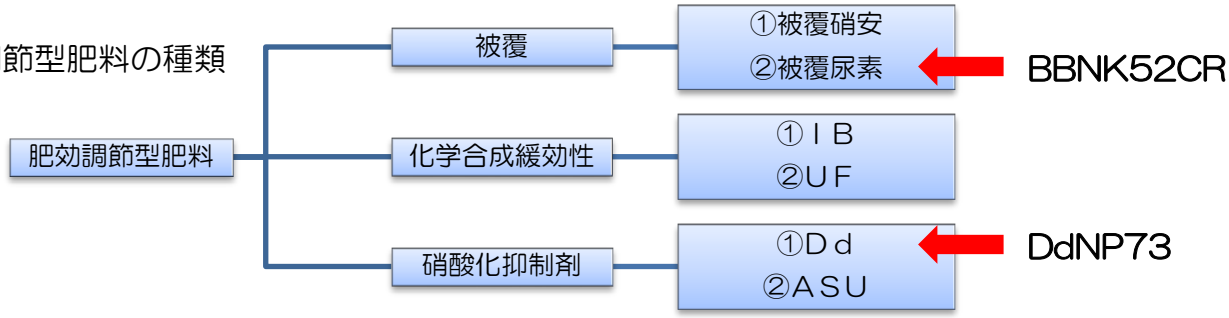
＜肥効調節型肥料に期待される効果＞

① 施肥回数の削減による省力化
- 労働時間が短縮、作業費用が削減
- 春先などの作業競合が回避

② 養分の効率的吸収による生産の安定化と減肥
- 作物のストレス（濃度障害等）回避
- 生育ステージに合った窒素効果

③ 環境への肥料成分の流出・排出抑制
- 降雨による窒素成分流亡の軽減

肥効調節型肥料の種類



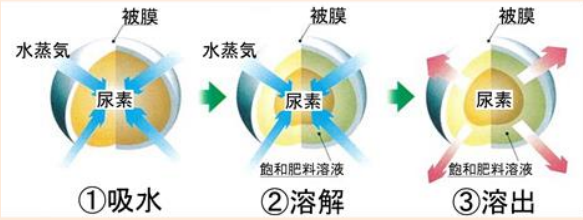
秋まき小麦の肥効調節型肥料のご紹介　～追肥銘柄～

☆ **BBNK52CR** ☆
（被覆尿素）

保証成分%（N-P-K-Mg）	施肥量例（kg/10a）	施肥要素量(kg/10a) N	P	K	Mg	特長
BBNK52CR (25-0-2-0)	50	12.5		1		セラコートＲ15入り

＜被覆尿素 ― ｾﾗｺｰﾄ（ＣＲ）の溶出のメカニズム＞

①土壌中の水分が水蒸気の形で被膜を通して浸透します。
②内部の肥料を溶出させ飽和溶液を生成します。
③その結果、被膜内部の圧力が高まり、溶けた肥料成分が被膜を通して徐々に被膜外へ溶出・拡散します。



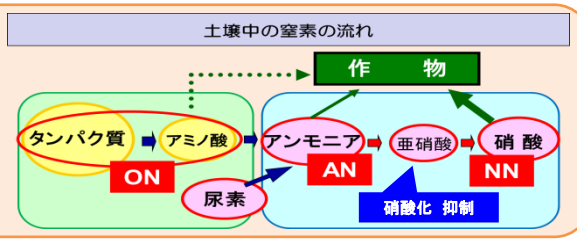
起生期追肥として使用し、幼形期・止葉期の追肥省力が目的の肥料です。
平均収量・品質は慣行施肥（起生期、幼穂形成期、止葉期に追肥）とほぼ同等の効果が得られています。

☆ **DdNP73** ☆
（硝酸化抑制剤入り）

保証成分%（N-P-K-Mg）	施肥量例（kg/10a）	施肥要素量(kg/10a) N	P	K	Mg	特長
DdNP73 (17-3-0-0)	50	8.5	1.5			硝酸化抑制剤入り

＜硝酸化成抑制剤入り化成肥料のメカニズム＞

有機物から生成されるアンモニア態窒素が硝酸態窒素へ変化するのを、遅らせるための薬剤を硝酸化抑制剤といいます。
硝酸化を抑えることにより、アンモニア態窒素が長い期間土壌に保持され、窒素の流亡や脱窒を軽減します。



硫安と同じ価格帯の肥効調節型肥料です。幼穂形成期の追肥効果が期待できます。

※ご紹介した肥料を使うことで幼穂形成期～止葉期までの追肥を省略できます。
年次により適期に追肥する慣行施肥より収量性がやや劣ることもありますので、作業省力重視の銘柄とお考えください。

【北見施防協試験結果のコーナー】

～このコーナーでは過去に行った北見施防協試験※の結果（概要）を中心にご報告いたします～

※北見施防協試験とは？・・・オホーツク管内の各JA・網走農業改良普及センター・ホクレン北見支所では、「北見施肥防除合理化推進連絡協議会（**北見施防協**）」を組織しており、肥料・農薬に関する新資材や新技術に係る現地試験ほ場を設置し、その結果を取りまとめています。

秋まき小麦の　基肥　に　肥効調節型肥料　を使用した
3地区分の試験結果（平成29年度実施）をまとめました。

起生期、幼穂形成期の
追肥省力化が期待できます！

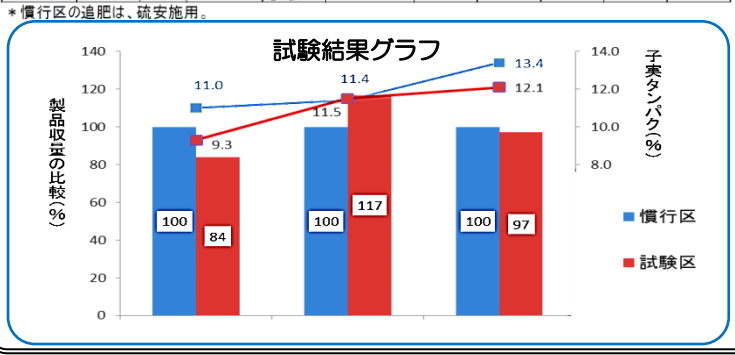
☆ 試験条件 ☆

設置場所	土壌型	pH	熱水抽出性窒素(mg/100g)	処理区分		施用窒素成分量(kg/10a) 基肥	起生期	幼形期	止葉期	合計
佐呂間町	低地土	5.9	4.4	慣行区	BB808Cu1	4.8	6.3	6.9		18.0
				試験区	BB050CuLS	18.0				18.0
北見市	低地土	6.1	6.2	慣行区	BB805MgCu	6.0	4.0	4.0	4.0	18.0
				試験区	BB050CuLS	18.0				18.0
美幌町	黒ボク土	6.1	4.1	慣行区	BB858Cu1	4.0	6.3	3.5	4.2	18.0
				試験区	BB050CuLS	18.0				18.0

＊慣行区の追肥は、硫安施用。

☆ 試験肥料銘柄 ☆

保証成分%(N-P-K-Mg)	施肥量例(kg/10a)	施肥要素量(kg/10a) N	P	K	Mg	特長
BB050CuLS (20-15-10-3)	90	18	13.5	9	2.7	LPS30%：N5% LPS40：N12.5% Cu：0.08%



佐呂間町

越冬前の茎数が少なかったので、春以降の穂数と収量が伸びませんでした。

北見・美幌

収量、品質ともに慣行区と同等か上回る結果となりました。

他の作物との作業が重なる　適期追肥が難しい
などお困りの方におススメです！

★内容に関してのお問い合わせやご意見・ご感想につきましては、ホクレン北見支所 営農支援室（担当：林田）まで、メールにてお願いいたします。（アドレス：11einousien@hokuren.jp）

～次号予告～

次号（平成30年度第3号）のテーマは『酪農（生乳）』です。乞うご期待下さい！